

あとがき

本誌が「東京医学専門学校雑誌」から「東京医科大学雑誌」と改称され、第5巻第1号が発行されたのは1947年6月であったが、巻を重ね第60巻となった。この間を振り返ってみると、WatsonとCrickによるDNAの二重らせん構造の提唱(1953年)、Sangerによるインスリンの構造決定(1955年)などから、ヒトゲノムの全塩基配列の決定まで50年が経過したにすぎない。またこの間、内視鏡・CT・MRIなどをはじめとする医療技術も長足の進歩を遂げたことはいうまでもない。このような経緯を考えると、現在の医学生が第一線で活躍する頃に、医学・医療の場でどのような発展があるのか予想もつかない。

一方、医学教育の場では、これまでに蓄積された膨大な教育

内容および教育手法の見直しが求められている。また、高等学校では学習指導要領が来年4月から改められ、「ゆとり教育」の名のもとに理科の授業時間数は削減され、教科内容は3割減となる。削減内容が順次先送りされると、2006年度から大学医学部教育が受ける影響は少なくないと言える。

このような状況を踏まえ、カリキュラム委員会を中心に本学独自の新たなカリキュラムがまとめられつつあるが、本誌投稿規定にあるように、本誌が「医学教育の情報を提供し」、自由闊達な意見交換の場としても利用されるよう望むものである。

(荒井 貞夫 記)

幹事会 (要旨) (平成14年1月)

- 第149回医学会総会の進行状況について報告があった。
開催日時：平成14年6月1日(土)
当番教室：生理学第2, 放射線医学
発表形式：パネル発表
その他：自主研究を行っている学生の参加について報告された。
- 第150回医学会総会の日程等が発表された。
開催日時：平成14年11月2日(土)
当番教室：解剖学第1, 産科婦人科学
発表形式：シンポジウム
- 編集状況の報告並びに編集方針について討議した。
- 臨床懇話会報告
開催報告
第315回平成13年11月13日 外科学第1 中村治彦講師
第316回平成13年12月21日 外科学第4 後藤悦久講師
開催予定
第317回平成14年1月28日 精神医学 富澤 治講師
第318回平成14年2月22日(霞) 循環器科 栗原正人講師
- 臨床懇話委員会新委員名簿と当番教室一覧表の説明が行われた。
- 投稿論文奨励賞・医学会奨励賞選考審査委員名簿の報告があった。
- 審議事項
 - 東京医科大学雑誌と東京医科大学紀要との合併問題について、種々討議された。
 - ペイオフ対策について。
平成14年4月からのペイオフ解禁に備え、東京医科大学医学会基金口定期預金の保管状況について、今後の対策が検討された。
 - 医学会フォーラム(MSF)に対する諸経費等について。
医学会フォーラムの発会と運営について討議された。医学会が中心となり運営する研究会としては、MSFのみとする事が確認された。運営にかかる諸経費等については、学校法人との交渉結果待ちとなった。

医 学 会

伊 東 洋 (会長)	荒 井 貞 夫 (委員)
高 山 雅 彦 (副会長)	井 色 俊 任 ()
小 柳 久 新 (庶務幹事)	一 岩 遠 藤 ()
石 丸 善 一 (編集幹事)	本 藤 藤 江 ()
鈴 木 善 一 ()	後 藤 松 岡 ()
内 野 善 一 ()	福 松 宮 口 ()
大 屋 敷 一 眞 喜 雄 ()	輝 純 一 郎 ()
飯 森 光 輝 明 ()	水 宮 正 史 ()
下 加 井 明 徳 ()	宮 森 行 ()
星 加 井 明 徳 ()	岡 安 岡 ()
向 加 井 明 徳 ()	岡 安 岡 ()
J. P. バロソ ()	岡 安 岡 ()
浅 倉 英 樹 ()	岡 安 岡 ()

編集委員会

内 野 善 一	生 馬 衛 彦	松 水 森 行	宮 輝 彦
大 屋 敷 一	任 健	水 森 行	宮 輝 彦
鈴 木 藤 岡	任 健	水 森 行	宮 輝 彦
遠 藤 岡	任 健	水 森 行	宮 輝 彦
松 岡	任 健	水 森 行	宮 輝 彦

平成14年4月25日 印刷

平成14年4月30日 発行

東京医科大学雑誌 第60巻 第2号

発行者 伊 東 洋

発行所 東京医科大学医学会

(東京医科大学内)

東京都新宿区新宿 6-1-1

TEL 03 (3351) 6141 (代)

FAX 03 (3226) 7030

印刷所 笹氣出版印刷株式会社

仙台市若林区六丁の目西町 8-45

TEL 022 (288) 5555